

加賀市地域医療審議会（令和２年度第１回会議） 会議録

日 時：令和２年６月１１日 午後７時３０分開会

会 場：加賀市役所 別館 301 会議室

出席委員：新家委員、伊勢委員、上棚委員、河村委員、小橋委員、鈴木委員、高崎委員、
田端委員、谷村委員、土屋委員、中野委員、沼田委員、前川委員、棟居委員
(50 音順)

<会議の概要>

１．開会

○開会あいさつ 深村副市長

深村でございます。まず会議を始める前に、皆様方にお礼を申し上げなければなりません。新型コロナウイルス感染症の収束状況が見えない中で、医療関係の皆様方、介護・福祉関係の皆様方には、極めて深刻な状況の中でケアとケアにご尽力をいただきまして、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

なお、今回の地域医療審議会では、皆様方にも大事な時間帯にお集まりいただきまして、この委員のメンバーとなることをお引き受けていただいたことに、改めてお礼申し上げます。

本日の地域医療審議会では、三つ議事を予定しております。一つ目は加賀市医療センター改革プランの進捗状況について、二つ目は山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について、三つ目は山中温泉ぬくもり診療所の公募について、皆様方にご議論いただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響のため、会議時間はあまりございませんが、地域の医療に関して大事な案件でございますので、忌憚の無いご意見を交わしていただいて、私共にお示しいただければと思います。ぜひ率直なご意見をいただきたいと思います。本日はありがとうございます。

2. 委員委嘱

各委員に委嘱状を交付し、順番に自己紹介をした。

上棚委員 上棚です。6月から会議がスタートということで、初めての会議ですので、皆様よろしくお願いいたします。

沼田委員 南加賀保健福祉センター所長の沼田です。いつもありがとうございます。新型コロナウイルス感染症も落ち着いて、リアルに会議が出来ることをとても喜んでいます。よろしくお願いいたします。

河村委員 加賀市医師会顧問の河村です。私も何年か委員を務めました、またこの会議に顔を出せました。今後ともよろしくお願いいたします。

鈴木委員 皆様こんばんは。加賀市歯科医師会の鈴木と申します。地域医療審議会のメンバーは引き続きということになります。皆様と一緒に共有していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

田端委員 石川県薬剤師会加賀支部支部長の田端と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中野委員 加賀市介護サービス事業者協議会会長の中野でございます。よろしくお願いいたします。

新家委員 加賀市各種団体女性連絡協議会 新家と申します。初めての委員ですのでよろしくお願いいたします。

土屋委員 金沢大学附属病院整形外科 土屋と申します。6月19日までは県外に

まだ出ては行けないですが、加賀市でしたのでここに来ることができました。よろしくお願いいたします。

小橋委員 加賀市医療センター 小橋です。病院を代表しまして、本日は病院に対するご意見やご議案も含めて、お聞きしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

棟居委員 加賀こころの病院の棟居です。加賀市で仕事をして、丸4年が経ち5年目になります。金沢から通勤しておりますが、加賀市には何となく愛着というか良いところということを感じています。微力ですが何らかの力になりたいと考えています。よろしくお願いいたします。

伊勢委員 石川病院の伊勢です。当院は障害者病棟、重症心身障害者病棟、一般病棟がございます。よろしくお願いいたします。

谷村委員 加賀市社会福祉協議会で事務局長を務めております谷村団司と申します。よろしくお願いいたします。

高崎委員 公募委員の高崎と申します。昨年も参加させていただき、時々の外れなことを申し上げると思います。昨年も PDCA の話しを何回も言っていたのですが、今年も計画の見直し等を聞いていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

前川委員 薬剤師をしております公募委員の前川と申します。新型コロナウイルス感染症の影響は私にもございましたが、実は先週6月1日（月）石川県で聖火リレーが予定されておりました。私、縁がございまして、加賀市を走行するランナーに選ばれていたのですが、来年もどうなるのか分

からない状況です。この会議も含めまして加賀市に携われることを非常に光栄に思っています。この会議で少しでも力になればと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局紹介

深村副市長 深村でございます。よろしくお願いいたします。

加藤管理部長 加賀市医療センター管理部長を務めております加藤と申します。よろしくお願いいたします。

奥村健康福祉部次長 加賀市健康福祉部次長の奥村でございます。よろしくお願いいたします。

山下長寿課長 加賀市長寿課長の山下と申します。よろしくお願いいたします。

薦企画経営課長 加賀市医療センター企画経営課長の薦と申します。よろしくお願いいたします。

石本総務課長 加賀市医療センター総務課長の石本と申します。よろしくお願いいたします。

篠田長寿課長補佐 加賀市長寿課の篠田と申します。よろしくお願いいたします。

尾崎長寿課主事 加賀市長寿課の尾崎と申します。よろしくお願いいたします。

3. 地域医療審議会条例及び会長、副会長の選任

地域医療審議会条例の説明及び互選により上棚委員が会長、沼田委員が副会長に選任された。

4. 議事

上棚会長

ただいま会長に選任されました上棚です。本日は 14 時から県医師会に出向いておりまして、16 時に県医師会から出た後にこの会議に出席しております。午前中は土砂降りで前が見えない状態でしたが、夕方から晴れました。梅雨の第一日目ということで、この会が晴々しい会ではないかという感じを受けました。

現在は新型コロナウイルス禍の中ですので、議事進行を早め、円滑に進行したいので、皆様ご協力の程をお願いいたします。それでは議事に入ります。次第に基づきまして、議事 1 の諮問について、事務局より説明願います。

議事（1） 諮問書について

事務局説明 資料 1 諮問書（写）

<質疑応答>

質疑なし

議事（2） 加賀市医療センター改革プラン進捗状況について

事務局説明 資料 2 加賀市医療センター改革プラン進捗状況

<質疑応答>

上棚委員

ただいまの説明で委員の皆さんよりご質問ございますか。

では、私から申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響によりウォークイン患者の状況について、以前よりウォークイン患者が多すぎて医師が疲弊していると伺っていましたが、現時点でのウォーク

イン患者に関してはどんな状況ですか。

事務局（薦） 正確な数字は今手元にないですが、感染を恐れて受診しないこともありまして、ウォークイン患者数については、新型コロナウイルス感染症が広まり始めてから減少しました。二割程の減少でした。

上棚会長 新型コロナウイルス感染症の影響があっても、二割程の減少であったのですか。五割の減少にもならなかったのですか。

事務局（薦） 二割程度でございます。

上棚会長 出来るだけ医師の負担を減らす意味で、内容が分かれば我々も対応ができますので、内容を教えてほしい。

事務局（加藤） 新型コロナウイルス感染症が流行し始めてからの特例措置といたしまして、通常加賀市医療センターでは電話のみの投薬はできないことになっておりますが、接触を極力避ける観点から電話投薬が時限的に出来ることとなっております。そのため、患者数がそれ程減少していないため、二割程の減少で留まっていると思われます。しかし、電話のみの投薬を繰り返すような患者様は、かかりつけ医に診療いただくことが最も良い形であると思います。

前川委員 前川です。4月末頃に発熱外来が出来たと思いますが、稼働状況をお示してください。

事務局（石本） 発熱外来の稼働状況について、5月末までの数字でございますのでご容赦ください。4月30日から発熱外来が始まりまして、利用者数は139名でございました。平日及び土日の休日に開設しております。平日の平均利用者数が5.6人、休日の平均利用者数は2.3人の実績数でございました。

伊勢委員 先程上棚会長が申し上げた外来患者の移行に関して、紹介率の数値を年次で追っていきますと、あまり増加していないのはなぜでしょうか。再診の患者様が多くいらっしゃるのかなと思いますが、その辺りでの新しい試みをご教示いただきたい。

事務局（蔦） 病院に受診する患者様は、複数科を受診する患者様もいらっしゃいます。そのような患者様にかかりつけ医の紹介をすることが難しくなる傾向にありますが、まずは院内でどちらかの科に診療を集約いたしまして、それからかかりつけ医に紹介を促していくことを取り組んではいます。しかし、説明等に時間を要してしまうこともございまして、進みにくいという現状がございます。

外来の診察に関しましては、大学病院等からの非常勤の先生方に来ていただいています。そういった先生にも多くの患者様を診察していただいているのですが、応援に来ていただく先生には、診療時間について時間的な制限がございます。そういった中で紹介を促すといった時間を持つことが厳しくなります。また、診察時間が長くなる傾向にありますので、進みづらいこともあります。この点を新たな取組み等で解決していきたいと考えています。

伊勢委員 情報提供書の作成や雛型みたいなものを活用されているところも多いと思いますが、いかがでしょうか。

事務局（蔦） 特に救急で受診された患者様等にかかりつけ医に受診していただくような取組みを含めて、雛型の準備をしておりますので、今後更に考えていきたいと思っています。

高崎委員 経常損益について、四期連続で赤字ですがいかがでしょうか。一般の民間会社であれば大変なことであります。そのため、公立病院の場合どのように経常損益を考えればいいのか、計画に対してどうであったかということ参考までに分かりやすく教えていただきたい。開業

医の皆様であれば大変なことであると思いますが、いかがでしょうか。

事務局（蔦） 新しい病院を建設するに際しまして、二つの病院を一つにすることで、それぞれの病院の老朽化の問題がございました。国からの医療施策において、病院を集約化して経営の効率化を高めることで補助金制度がございました。借金をするにしても有利な財源という制度もございました。そういった時限的な制度でございましたので、タイミングを捉えて病院の統合に踏み切った訳でございます。その際には、大きな投資をしますので、当初は医療機器等も整備する必要がございました。医療機器の減価償却が開院後、5～7 年は非常に高額になる見込みでございました。開院前のシミュレーションでは開院してからの5～7 年目まで厳しい状況を見込んでおります。その中で1 年目、2 年目辺りまでは見込みを上回るような収支、赤字ですけれども見込みよりも良い収支でございました。3 年目が見込みと同じです。4 年目で先程も説明しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、見込みより悪い数字になりました。そのため、令和2 年度、令和3 年度以降も数字を改善するような取組みをしていきたいと思えます。

高崎委員 計画に対してどのような実績であったかという見方も必要だと思います。

上棚会長 私も県医師会に行っていたとき、産業医の集約センターである石川産業保健総合支援センターではノルマがございました。例えば、事業数 50 件の目標が定められ、ノルマに達成しなければいけないということがあります。石川県は産業医の働く率は良好であるため、ノルマが厳しくノルマ以上の実績になる場合もあります。前年度と比較してどうなるのか、ということで組織が活性化していました。

そのため、計画を立てて行動し、見える化をしたほうが良いのではないかと思います。

事務局(薦) 令和3年度からは新たな5年の計画を策定する必要があります。
その計画は今年度中に策定する訳ですが、現在記載されている指標ではなく、指標そのものを見直して計画を策定したいと考えております。

議事(3) 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について

議事(4) 山中温泉ぬくもり診療所の公募について

事務局説明 資料3 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について

資料4 山中温泉ぬくもり診療所の公募について

<質疑応答>

上棚会長 委員からご質問はございますか。

沼田委員 資料3を見せていただきまして、収支は随分改善されていると思われます。また、一ページ目の3の②児童発達支援・放課後等デイサービスの利用者数について、前年度と比較し11%増加しており、二ページ目の決算状況でも平成29年度と比較すると、収益は1.7倍増加しています。この数値は評価すべきではないかと思います。

資料4に関しましては、スケジュールを見ると時間的な余裕がないと見受けられます。プロポーザル方式と言ってよいと思いますが、基本的には質を重視して選考されていきます。しかし、プロポーザル方式の際は、加賀市がどういった指定管理者に山中温泉ぬくもり診療所をどういう機能で、どういうポイントを重視して、どういった組織でこの診療所を活かすのかという視点がないと、選定する際にも一体どこが良くて、どこがニーズに合わないのかが見えにくいです。その内容が資料4にはございませんので、その内容をお示しいただいた資料について、今日ここで議論するならば意味があったかなと思います。

公募に向けての時間がもうないと思いますが、事後でもいいのでプロポーザル方式の際には、こういったことが重要であることをまとめていただけると有難いです。出来ればその部分をこの場で多少議論させてもらえればと思い、ご提言させていただきたいと思います。

上棚会長 沼田委員のご意見に対しまして、ご説明願います。

事務局（山下） 今回の指定管理の指定に関しましては、まず診療所で選定をしなければならないことがございます。指定管理者である地域医療振興協会では、いろいろな特色がございましたが、今回公募いただく際には、指定管理者として診療所を運営いただけるのであれば、自主事業として、意欲ある自主事業のご提案をいただければ、その部分に配点をさせていただくこととなります。その趣旨の下、まずは診療所の公募をさせていただきたいと思っております。

沼田委員 山中温泉ぬくもり診療所をどのような形で残すのかが見えにくいんです。診療所を引き継いでくれる指定管理先を決定するだけではないかと受け取れます。折角、歴史を重ねたいろいろな意味のいろいろな機能を持っているこの資源をどう使い切るのかを、加賀市を含めて、この審議会でもあり方が見えれば良いのではと思いました。

上棚会長 平成 30 年度と平成 29 年度ですが、一日平均患者数がほぼ変化がない状態です。目標があり、成果が上がってこなければならないと思うが、何か理由はあるのか。

事務局（山下） 山中地域におきましては、ご高齢の方が多く、新規の患者様は少ない状況でございます。従前受診していた方は再診するような形の方が多いためです。

鈴木委員 先程沼田委員からプロポーザル方式をどういった形で行うのか、というご質問がございましたが、沼田委員の思っていることと異なるのかもしれませんが、私のイメージでは山中温泉ぬくもり診療所が当初指定管理を受けるときから委員を務めておりまして、そもそも山中温泉ぬくもり診療所を山中温泉地域に残すことは、当時の山中地域における激変を緩和するために、山中温泉ぬくもり診療所を設置すること

が当初の目的でした。

今上棚会長も申し上げるような目標が、少しずつ割ってきていることも、激変が少しずつ緩和している証であると思いますし、ある一定の役割は終えてきたのかと思います。その中で、今後指定管理においては、比較的コンパクトな形で、現状にそぐうような形の運営が出来るような格好にしてほしいと思い、公募であると思っていますがいかがでしょうか。

事務局(山下) 山中温泉医療センター閉院による激変緩和は果たしたということで、令和2年3月の地域医療審議会答申におきまして、答申書をいただいております。その中で地域の医師の高齢化、山中温泉ぬくもり診療所の外来患者の実績数の現状や市の医療提供体制を踏まえて、バッファという役割は果たしたものの、継続していくことが望ましいというご意見をいただきました。市としても、このご意見を踏まえて、今回継続したものでございます。そのため、今回については激変緩和策という形の診療所の最小限の役割ということで、継続という形で公募させていただきました。

上棚会長 実際沼田委員が仰ったとおり、案を出していく時期としては難しいと思いますが、もし一般公募がない場合、市はどう考えているのか。

事務局(山下) 今回の公募につきましては、内科のみで、市内開業医等でも応募可能な内容になっております。そのため、応募する事業者はあるものと考えております。万が一応募がなかった際は、指定管理条例に基づきまして、本市が出資等をしている法人又は公共団体もしくは公共的団体を対象として、再度協定に向けた協議を行うこととなっております。

沼田委員 資料3を見て、診療所とは機能が違うのかもしれませんが、児童発達支援・放課後等デイサービスについて、移行期間の間に見えてきたのは、確かにバッファとして当初の議論にございましたが、着実に今

の時代のニーズの中で、特に発達障害等の問題を抱えた子ども等、行政的なニーズとしては非常に高いと思います。医療的なケアに関しましても、いろいろな事業が国からも言われている状況の中で、加賀市では医療と結び付くところはここだけであります。小松市は小松こども医療福祉センターがございまして、非常に充実しています。能美市も平成 30 年に民間法人において、運営しております。加賀市においてこの機能無くすと、せっかく今育ってきているものを他でどうやっていくのかという視点をお持ちいただきたいです。診療所機能と児童発達支援・放課後等デイサービスについては質の全く異なる事業をしている現状でございますので、私自身の答えはないですが、この視点だけは持ってほしいと思います。行政の立場から見ると、とても惜しいと思っております。この機能が無くなると非常に手痛いと思います。

上棚会長 沼田委員の考え方は、追記して考えていただけるのでしょうか。

事務局（山下） 貴重なご意見ありがとうございます。今回につきましては、診療所の指定管理であり、公の施設でございます。児童発達支援センターにつきましては、公募の範囲に含まれておりませんので、こちらに関しては今回の指定管理者の指定についてのご意見をいただきたいということをお願いいたします。

谷村委員 二点教えていただきたい。収支を確認しますと、二千万円の赤字でございますが、負担は誰がするのか。また、山中温泉ぬくもり診療所に訪問看護ステーションがございしますが、現在の状況はどうなっているのか教えていただきたい。

事務局（山下） 赤字についてでございますが、平成 28 年 4 月から指定管理として地域医療振興協会で運営されております。初年度から赤字が続いている状況です。この赤字につきましては、地域医療振興協会で賄ってい

る形でございます。

訪問看護ステーションについては、現在も運営しております。

上棚会長 訪問看護ステーションについては、人数は把握されていますか。

事務局（山下） 令和元年度につきましては、医療は 337 件、介護は 257 件、合わせて 594 件でございます。

上棚会長 一般公募の経過をご提出いただき、それに関して委員で議論したい
と思いますので、その際にはしっかりしたビジョンを示していただければよいと思います。

事務局（山下） 今程多くのご意見をいただきましたが、これらを踏まえまして、録音もしてございますので、それらを基に上棚会長と確認いたしまして、答申書原案を作成しまして提出するご提案をしたいのですが、いかがでしょうか。

上棚会長 委員の皆様、それでよろしいでしょうか。

事務局（山下） 本日いろいろなご意見をいただいておりますが、まずは加賀市医療センター改革プラン進捗状況につきましては、現時点で概ね良好ということかと思えます。

山中温泉ぬくもり診療所の運営状況につきましても、収支が赤字というご意見もございましたが、現時点では概ね良好ということかと思えます。

また、山中温泉ぬくもり診療所の指定管理者につきましては、皆様のご意見をいただきましたが、まずは公募でお願いしたいと思います。が、そのような形でよろしいでしょうか。

上棚会長 本日のまとめでございますが、この内容でよろしいでしょうか。ご

異議ございませんか。

(異議なし)

議事（５） その他

上棚会長 その他にご意見等ございますでしょうか。

棟居委員 加賀市医療センターを基幹病院とする初期研修医が二年前から二名入られて、今年も二名入られましたので、これは非常に画期的なことでございます。精神科の研修を一ヶ月、加賀こころの病院で行うこととなっております。先日一名研修されました。この傾向が今後も継続されることを期待しております。

上棚会長 地域医療にはなくてはならないことだと思います。

本日金沢に行った際、新型コロナウイルス感染症についてですが、一番大事なことはゾーニングと、スタッフが感染の知識力を高めることが必要であります。感染意識が低いとゾーニングをしても感染が拡大したことがございますし、ゾーニングをすることが一番大切であるご意見が多く統一されました。

これから第二波があるので、それに備えたものとして、これから智恵を絞っていかねばいけないと思います。研修会も開催できないため、難しい状況ではありますが、感染症に対してのスキルアップを目指していく必要があります。皆様も認識を高めていただきますようお願いします。

○事務局連絡

・会議録（案）は、完成次第送付するので確認をお願いしたい。

上棚会長 それでは、会議を終了いたします。進行にご協力いただきまして大変ありがとうございました。

5. 閉会

午後 8 時 5 0 分閉会